

監修者あとがき

故大平正芳総理が、政治家としての第一歩を踏み出したのは、一九五二年に吉田茂首相の率いる自由党から立候補し衆議院議員に当選した時のことである。しかし故総理は、それ以前の一九四九年以来、池田勇人蔵相の秘書官として、政治の枢機に参画してきた。そして一九六〇年に池田内閣の官房長官となり、有為の政治家として注目されるようになり、以後一九八〇年六月現職首相のまま突然逝去するまで、自由民主党の有力者として、日本の政治に大きな足跡を残した。その政治家としての活動期は、日本が独立を回復し、第二次大戦の惨禍から立ち直り、経済大国に発展していく時期と符合していた。政治家大平正芳の生涯は、戦後日本の政治と不可分に結びついていたのである。しかし同時代の政治家のなかで故総理をきわだたせていたのは、なによりも、深い歴史への洞察に裏打ちされたその先見性と、困難に怯まず理想を求めて止まなかったその真摯な態度と、そして信義を重んじ温和で誠実なその人柄であった。

大平正芳総理が、わが国議会史上初めての衆参両院同日選挙の最中に、劇的な死を遂げて間もなく、故人の生涯と業績と人柄を出来るだけ正確に記録に留めることを目的として、『大平正芳回想録』刊行会が、伊東正義元外相と森永貞一郎元日銀総裁を代表者として設立され、故総理と親交のあった人々の追想を集めた『追想編』（一九八一年刊）、その生涯を辿った『伝記編』（一九八二年刊）、同首相の文章・演説原稿・写真・年譜等を収めた『資料編』（同年刊）の三冊が、同刊行会から相次いで刊行された。私たち三人は、このうち『伝記編』の監修をお引き受けすることになった。その際、時間的に限られていたにもかかわらず、多くの方々の協力を得て膨大な量の資料を収集することができ、また大平総理と親交を結ばれた数多くの方々から貴重な証言を頂いた。関係者諸氏の御好意と御協力にあらためて深く御礼申し上げる。幸いこの『伝記編』は、多数の一般読者から強い購入希望が寄せられたので、単行本の『大平正芳回想録』として鹿島出版会から一九八三年に再び出版された。しかしその際には、読者の便宜のため年譜と参考文献を付し、誤記誤植を訂正した以外は、改訂は一切行われなかった。

本書は、故総理の逝去十年を記念するため、新しく利用可能となった資料に基づき、また最新の研究成果を参照して、『伝記編』を全面的に改訂したもので、大平正芳記念財団の記念事業の一環をなすものである。今回は英文版も刊行することになったので、改定に当たっては、叙述の正確さを期するとともに、外国の読者の理解に資することに特に心掛けて加筆・訂正を行った。

『伝記編』の場合と同様、今回も、多くの方のひとかたならぬ御協力を得た。特に、執

筆を一部分担されたうえ、全体に目を通され貴重な御教示を頂いた福川伸次氏と安田正治氏、同じく全体的に御教示下さった阿部穆氏、過半の執筆を分担されるとともに全体を通じて文体の統一と総合的調整に当たられた福島正光氏、英訳を担当されたウイリアム・カーター氏、英文のエディティングに当たられたジュールス・ヤング氏、日本文と英文を照合する労をとられた鈴木主税氏、英本版編集作業の全般的管理を担当された一場慎司氏、日本語版編集作業に協力された花岡浩氏、そして本書作成全体の事務処理に当たられた齋藤英夫、野原寛、太平剛の各氏に心から御礼申し上げます。

これらの方々の献身的なご尽力がなければ、故大平正芳総理の逝去十周年に、本書を完成させることは、とつてい出来なかつたであろう。

故大平正芳総理の御温容を偲びつつ。

一九九〇年四月

公文俊平
香山健一
佐藤誠三郎